

マダコ養殖の最適化と実証

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 伊藤 篤

2 研究期間：令和6年度～令和10年度（5年間）

3 研究目的

人工種苗によるマダコ養殖産業を創出することを目指して、養殖マダコを大量生産するために飼育の安定化と生産効率の向上を図る。

4 研究内容及び実施体制

① マダコ養殖技術の実証と普及

種苗生産技術の普及と着底期以降の中間育成技術の改良を進め、民間企業と共に開発した養殖技術を実証する。また、マダコ養殖が普及する条件を明らかにする。

（水産研究・教育機構、マリンテック株式会社、岡山県農林水産総合センター水産研究所、香川県水産試験場）

② マダコを量産するための飼育技術の効率化

養殖用飼料と効率的飼育手法を開発し、最適飼育条件を解明するとともに、成熟制御技術を開発する。

（東京海洋大学、マリンテック株式会社、水産研究・教育機構、香川県水産試験場）

③ 周年生産を実現するためのマダコ種苗生産技術の開発

マダコ幼生餌料の安定確保のためにガザミの産卵・ふ化制御技術の高度化を図るとともにガザミゾエア代替餌料を開発し、種苗量産体制の構築と生産時期の拡大を図る。

（岡山県農林水産総合センター水産研究所、香川県水産試験場、水産研究・教育機構）

5 最終目標

ふ化ダコから500g～1kgの商品サイズまで、18%の生残率で養殖するための技術開発を行うとともに、春季以外にもマダコの種苗生産を可能とする周年生産技術を開発する。

6 期待される効果・貢献

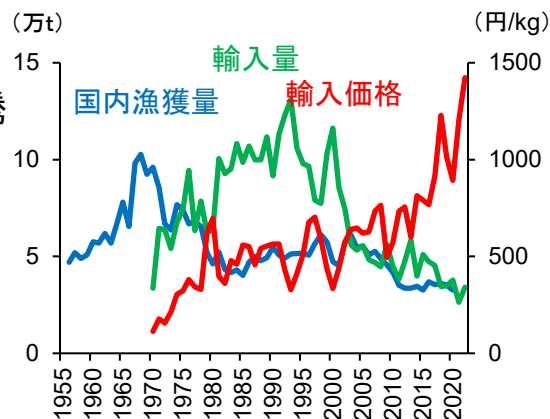
人工種苗による計画的、効率的な養殖技術の開発により、新たに沿岸地域でのマダコ養殖産業が創出され、天然資源に依存しないマダコの安定供給が可能となる。

背景

マダコ漁獲量の低迷と輸入価格の高騰

養殖への期待

マダコ養殖の実用化に向けた
基盤技術の開発(H31-R2)
マダコ養殖の事業化に向けた
飼育技術の高度化と普及(R3-R5)
「マダコ養殖の実現に向けて大きく前進」



研究目的

養殖マダコを量産するため
飼育の安定化と生産効率の向上を図る

研究内容

技術の実証と普及 飼育技術の効率化 生産期間の拡大
市場分析 養殖用飼料、最適飼育条件 幼生用餌料の確保
成熟制御



水産研究・教育機構
マリンテック株式会社
岡山県、香川県



東京海洋大学、香川県
マリンテック株式会社
水産研究・教育機構



岡山県、香川県
水産研究・教育機構

最終目標

- ・ 0.5～1kgの商品サイズまで、18%の生残率で育成
- ・ 周年生産(春季以外の種苗生産)

期待される効果・貢献

マダコ養殖産業の創出

- ・ 国産マダコの安定供給
- ・ 天然資源に依存しない持続可能な養殖
- ・ 地域活性化

